

1 学校評議員委嘱

2 学校長挨拶

学校の現状報告 文化祭のお礼 前期生修学旅行のお礼 転出者の説明

在校生の状況 30の国・地域の生徒がいる。日本国籍 63% 進路概況の説明

5 3 出席者紹介

4 学校経営方針 学校経営の重点 スクールミッション・ポリシーに基づいた各部の方針、取組

5 本年度の取組

＜総務部＞…要覧 p6 参照 様々な場面を見てきたが総務部は生徒が安全快適に過ごせるために学校を変えるべきところは変える。安全性、快適性を追求する。学校行事をととして学校は動いていくので、

10 どう行事を配置するかを工夫している。国際高校と共用部分が多いので、綿密な打ち合わせが必要。

国際高校とは仲良くしていきたい。一緒に出来るところは一緒にやっていきたい。

＜学習支援部＞…教務、図書、進路、日本語教育がある。特にここ2、3年は校務支援システムが導入され、その運用をしている。教育課程の変更によるカリキュラム再編成。生徒の状況やニーズに応じカリキュラムマネジメントをしていきたい。日本語の支援が必要な生徒に対して、日本語検定資格を

15 単位認定するなどして、学習を促している。日本語の教科化を考えている。

＜生活支援部＞…文化祭の企画・運営が大変だと知った。子供たちの文化祭への思いがぶつかり合い、その板挟みになることも多かった。生徒が受入可能な部分と不可とすべき部分を精査し運営することが大切だと感じた。携帯の各自管理は昨年度からスタート。私服制服併用期間を長くしていく。年間計画をトップダウンではなく、生徒と考えながら本校らしさを出していきたい。「いじめアンケート」の様

20 式を見やすく変えた。概ね好評であった。

＜第1学年＞…昨年まで16期生を6年見てきた中で、22期生をどう運営していくか考えている。

「こども基本法」を意識して、生徒主体で動けるよう相互理解や自己表現力を高められるようにしていきたい。米中関係の悪化が生徒同士の関係にも及んでいる。これを機に多文化理解を進める必要がある。LGBTQについては、該当する生徒が多く見受けられるので対応せねばならない。

25 ＜第6年次＞…NZ研修が終わり最終学年となった。生活習慣の確立は引き続き進めていきたい。

普段の授業に加えて、模試を活用して学習の大切さを意識していきたい。総合型選抜を意識して、総合の時間で志望理由書などを書いている。文化祭に懸命に取り組んだ結果、賞を多くとることができた。現在は期末考査に向け頑張っている。勝負の夏に向けて頑張ってもらいたい。18歳となり成人となる生徒も増えてきているが、大人としての自覚をもってもらいたい。

30 6 質疑応答

●評議員「BYOD3年目となった。タブレットの活用ルールはどのようなものであるか」

○学校「ルールは生徒会で考え、5月に生徒会役員が教室を回り話をしている。」

●評議員「生徒が自分で考え動けるのは芦屋国際の良いところ。良いところは続けていってほしい。」

○学校「GIGAスクール構想で生徒全員がデバイスを持っているが、今は学校に置きっぱなしになっている。現在は夏休みに持ち帰れるように設定している。授業でスマホを使うことがあるが、スマホがある前提で授業を進めないでほしいという保護者からの意見もある。その問題も持ち帰りで解決できる。」

●評議員「コミュニケーション能力の育成、国際社会の貢献」が今年度の学校案内から抜けている。教育目標が変更されたのか。」

10 ○学校「現在はスクールミッションのみを乗せている。スクールポリシーが載っていないだけで教育目標を変えたわけではない。ホームページには載っている。

●評議員「スクールミッション、スクールポリシーに再編されているので削ったわけではない。ただ、表に出ていないので変わってしまったのかという意見はあるかもしれない。」

○学校「外部にはどのように伝えるか検討する。」

15

●評議員「6年次の取組内容のどの部分が多文化共生を培った精神であるか。関係機関との連携はどのようなものであるか。1年では子ども多文化共生センターから講話を聞いているとのことだが、大切なことだと思っている。」

○学校「NZ研修旅行で、初めて会った人とすぐに打ち解けられるなど、年次が進むごとにその力が増している。自分が持っているもの、相手の持っているものをつなぎ合わせられる力がある。その力をどんどん発揮してほしい。」

●評議員「世界は豊かだなと感じたのがAIタイム。自分が芦国生だったときはロシア語を取ったが、母語でもなく英語でもない言語を維持するのは大切。それを尊重するのがコミュニケーションの良さだと思う。この状態を保ってほしい。」

25 ○学校「人権教育と考えると、人権について意識的に考えるのが人権意識。これが無意識に考えられるようになると人権感覚。ここまでできるのが芦屋国際だと思う。この感覚を培っていきけるのがいい。他校では意識的にやっているが、本校は無意識にできる。そういった感覚を強化するために一層子ども多文化共生センターと連携していきたい。」

30 ●評議員「スマホの使用に関して。その後トラブルはないか。1年次はロッカーに預けると聞いている。」

○学校「全学年同じ扱いをしている。テストでは預かっている。テストでうっかりミスもあるので、そのようなことがないように朝集めている。子どもを守る観点から。昼休みに触っているケースも

少しあるが、大きな事件はない。」

○学校「防災の観点からスマホの自己管理は大切だ。県の指導ではスマホを封筒に入れて金庫で管理と言われている。壊れた時の対応が難しい。本来は使い方、マナー指導ができるように動きたいが、時間はかかると思う。鍵付きロッカーは予算の問題があるが検討中。」

5

●評議員「新学習指導要領に移行し共通テストで「情報」が実施されるが対応しているか。」

○学校「6年次の科目として用意している。受験対策とは公には言えないが、21名選択している。5年次は必修科目で情報Ⅰがある。」

10 ●評議員「文化祭に関して学年Tシャツ作成で問題があった。6年次しか作れないという暗黙の了解があると聞いた。私は生徒で決めることだと思い静観していたが。」

○学校「来年度以降は公式的な協議をへて、決めていきたい。みんなで話し合うことが大事。」

●評議員「以前の勤務校では、毎年全学年が作っていた。生徒会が補助していた。生徒が決めるのがあるが、バックアップしてあげるのいいのではないか。携帯は、授業だけ使わないとしていたが、

15 大きなトラブルはなかった。マナーを学ぶのは大切。ここを教えてやってほしい。」

●評議員「第1学年からの報告にあったが米中関係のことが気になる。2期生でいじめから不登校になったケースがある。理念的には世界は一つと考えられる学校であるが、感性としてそういうものがあるのかと思った。大切なのは、「じゃあどうしたらいいんだろう」と考え解決する力。教科書の選定でも

20 もめたことがある。これは気持ちの問題。理性と感性がまじりあっている。いろんな考え方があるが、何のためにこの学校が設立されたのか。最初の理想にもう一度立ちかえってほしい。理屈ではわかっているが生徒たちは気持ちがついていっていない。何か議論できる場があるといいのではないか。」

○学校「姫路市教委から本校へ見学があった。市立高校を国際化の色を出したいということだ。色々な学校から注目されている。遠方から本校へ通学している生徒もいるので、姫路に本校のような学校が

25 できれば良い。」

30

